

社会資本整備重点計画のフォローアップ の進め方に関するこれまでの議論

<フォローアップの意義・目的>

- ① 計画の実効性の確保
 - ・重点目標を達成するために必要な事業・施策を推進する上での課題を明らかにし、改善策を検討
- ② 次期重点計画策定、現行重点計画の見直しへの展開
 - ・社会や時代の要請の変化をいち早く捉え、計画の見直し等の必要性、方向性を検討

計画部会

H24年度

H25～27年度

H27年度

フォローアップ対象の設定

- 重点目標別や事業・施策別等、フォローアップの対象を設定

フォローアップ実施方針、実施計画の検討

- 各重点目標や、重点目標の達成のために実施すべき事業・施策の特徴を踏まえ、実施方針、実施計画を作成

フォローアップの実施 (進捗状況の把握、課題の明確化、改善方策等の検討)

- 実施方針、実施計画に基づき、進捗状況の把握等を実施。
- 重点計画の実効性を確保する上での課題の明確化、重点計画の見直し等の必要性等を検討。
- 進捗状況の把握、課題の明確化の結果、改善が必要と判断される場合には、改善方策を検討

重点目標1	重点目標2	重点目標3	重点目標4
事業1 【指標1】	事業1 【指標1】	事業1 【指標1】	事業1 【指標2】
事業2 【指標2】	事業2 [指標なし]	事業2 [指標なし]	事業2 【指標1】
事業3 [指標なし]	事業3 [指標なし]	事業3 [指標なし]	事業3 [指標なし]
⋮	⋮	⋮	⋮

次期重点計画の策定に向けた方向性の検討

次期社会資本整備重点計画

○対象を絞ってフォローアップを実施してはどうか

- ・一つ代表的なテーマをサンプルとしてとりあげ、計画策定そのもの課題等を探していくのがよいのではないか
- ・絞り込まないと無理。委員会としてもわからない部分が多いのでトレーニングさせてほしい
- ・細かい検討内容まで議論するのは、時間的にも困難

○施策の達成状況を評価するだけでなく、施策の過程も併せて確認する必要がある

- ・達成状況の報告ではなく、施策の方向性をチェックすることが必要
- ・社会経済状況の変化(外的要因)を踏まえたフォローアップとすることが必要
- ・達成に向けて順調に推移しているものについても、より詳細な分析が必要

○計画部会では、各分野間の連携や分科会での議論を集約してはどうか

- ・他でやりようがない連携施策や分野を超えてパッケージでやる必要のあるものは、計画部会の場でやる必要がある
- ・計画部会では、各局で考えた改良案を提示してもらおう形がよく、指標の一つ一つを議論するのは困難。
分科会の議論を集め、進捗状況を集めていく仕組みが必要

○フォローアップを通じ、指標の妥当性を再検討することが必要ではないか

- ・目標の達成状況を検証する上で、妥当な指標であるかについて、再検討が必要
- ・データの読み方、集め方、共有の仕方、精度を含めて考えることが必要であり、5年間の中で整備していくことが重要
- ・指標は、目的にあっているか、解像度、誤差、感度、因果関係性等の視点が重要
- ・アウトカム指標の設定が困難な部分等を洗い出し、代替案を議論してはどうか
- ・重点計画である以上、分野横断的な視点が必要
- ・重点目標毎など、横断的・統合的な指標の設定が必要

○次期計画策定を見据え、計画の体系や議論の進め方を検討してはどうか

- ・フォローアップは、次期計画のつくり方を念頭におき、適切な労力で、フォローアップ結果を次期計画に反映できる仕組み、方法を考えるべき
- ・国家戦略と地方戦略の双方の視点から達成状況を把握することが必要